

一宮市立市民病院 医薬品情報室(DI 室)だより Vol.3



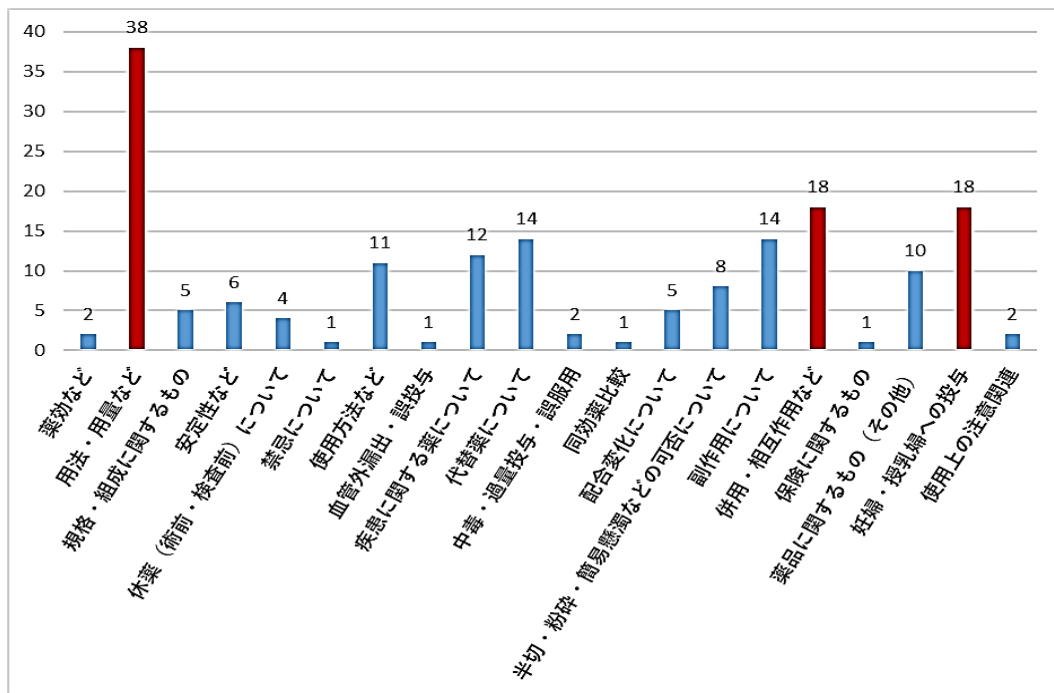
一宮市立市民病院 薬剤局 医薬品情報室(以下 DI 室)では、医療従事者等からの問い合わせ内容の一部を電子化にて保存しております。

今回、2017年4月から2018年3月までの期間に DI 室にて対応を行った、

「173 件」 の問い合わせ内容を項目ごとに分類し集計いたしました。

その中で、実際の問い合わせ内容を、一部以下にご紹介いたします。

～ 問い合わせ内容項目と件数 ～



① 用法・用量など

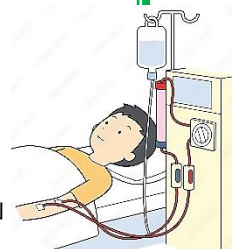
問い合わせ内容 例 ①

血液透析を行っている患者さんに結核治療が必要となりました。
リファンピシン、イソニアジド、エタンブトールの投与量を教えてください。

(回答)

リファンピシンと**イソニアジド**は、腎機能による減量は不要です。
リファンピシンは、10mg/kg/日、**イソニアジド**は 5mg/kg/日 で投与してください。
エタンブトールは、1 回 15～20mg/kgを透析後に投与してください。

※参考:「結核診療ガイド」





(補足) 抗結核薬の用法・用量(標準量、腎不全および血液透析時)

薬剤名	標準量 (mg/kg/日)	最大量 (mg/body/日)	腎不全時(1日投与量、投与間隔)			主な 排泄経路
			Ccr \geq 30mL/min	Ccr $<$ 30mL/min	透析時	
リファンピシン	10	600	正常時と同じ	正常時と同じ	正常時と同じ	肝
イソニアジド	5	300	正常時と同じ	正常時と同じ	正常時と同じ	腎 肝で代謝
ピラジナミド	25	1500	毎日減量	隔日又は週3回 25mg/kg/日	透析後に 25mg/kg/日	肝で代謝 腎
エタンブトール*	15 (20)	750 (1000)	毎日減量	隔日又は週3回 15mg/kg/日	透析後に 25mg/kg/日	腎

* : エタンブトールは、最初の2か月間は20mg/kg/日としてよいが、3か月目以降も継続する場合には15mg/kg/日、1日最大量750mgとする
 ※参考:「結核診療ガイド」

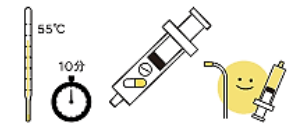
② 簡易懸濁の可否について

問い合わせ内容 例 ②

経管にてラベプラゾール Na 錠 10mg を投与していますが、
 溶けにくくチューブ閉塞を起こしそうです。
 他に経管投与が可能な同効薬はないですか？

(回答)

ラベプラゾール Na 錠は腸溶錠のため簡易懸濁できず、経管投与は困難です。
 同効薬としてランソプラゾール OD 錠 15mg はいかがでしょうか。
 口腔内崩壊錠であり、常温の水で容易に懸濁するため経管から投与可能です。



参考: 各薬剤添付文書、「内服薬経管投与ハンドブック第3版」

(補足) ランソプラゾール OD 錠の簡易懸濁注意点 「常温の水に懸濁する」

「ランソプラゾール OD 錠」は、微細な腸溶性顆粒を凝縮した製剤で、苦味のマスキングと主薬の安定化のため添加物として「マクロゴール 6000」が使用されています。

「マクロゴール 6000」は、常温ではパラフィン状の固形で融点が 56~61°C であり、融点を上回る温度の湯で簡易懸濁すると液状に融解します。

「ランソプラゾール OD 錠」の簡易懸濁において「マクロゴール 6000」が液状に融解した場合、その後の温度低下に伴う再固形化で腸溶性顆粒は非常に凝集しやすく大きな粒子になります。そのため、投与中にチューブ内で凝集が生じ、チューブが閉塞する恐れがあるため注意が必要です。

「ランソプラゾール OD 錠」は、口腔内崩壊錠であるという性質より、常温の水で速やかに崩壊し懸濁するため、簡易懸濁は常温の水を使用するとよいです。

一般的に簡易懸濁法で用いる温湯(約 55°C)は、「マクロゴール 6000」の融点に近いので「マクロゴール 6000」が添加された薬剤を簡易懸濁する際には、温湯の温度が重要となります。

※参考: 日経ドラッグインフォメーション 2014年6月号 No.200